

シンポジウムに関するアンケート 2017年度

アンケート回収数 41

1. 今回、本講座を何で知りましたか。 (複数回答有)
MEDINTのホームページ 11 (25%)、メーリングリスト (MEDINT、NAMI、移住連) 11 (25%)、友人から 8 (18%)、チラシ 4 (9%)、MEDINT以外のホームページ 2 (4.5%)、その他 (知人等) 11 (25%)
2. あなたの所属は (複数回答有)
医療通訳者 13 (29%)、医療関係学生 7 (15.5%)、医療通訳派遣団体・国際交流協会等 6 (13%)、教育関係 4 (8.9%)、研究者 3(6.7%)、行政 2 (4.4%)、その他 (医療クラーク、NPO職員、製薬) 5 (11%)
3. 今回のシンポジウムはいかがですか (未回答有)
 基調講演： とてもよかった 25 (69%)、よかった 10 (27.8%)、普通 1 (2.8%)
 パネルディスカッション： とてもよかった 22 (81.5%)、よかった 5 (18.5%)
印象に残っていること
・ 濱井先生の情報提供 (医療通訳オンラインコース)
・ 中荻エルザ先生の悩んでいた時に心療内科に行ったという言葉、パッションとお金、日本人コミュニケーションの特徴
・ ポップ先生のお話 (ネイティブ通訳特有のむずかしさ)、
「医師の疎外感」 (通訳の中立性とは医療チームの一人であり同時に患者の理解を助ける人間であること)
・ 村松さんの問い、「日本語ネイティブ」という考え方
4. あなたにとって医療通訳に対する支援として重要と思う内容はなんですか
「医療通訳者同士のネットワーク」
・ 情報共有／交換／コミュニケーションの場、横の連携 (言語・所属にとられない)
「医療通訳者の育成」
・ (医療通訳者を育成する) 公的な養成講座、フォローアップ研修会の充実、継続的人材育成
「医療通訳者への支援」
・ メンタルケア、心療内科の先生の支え
・ 医療通訳者を支えるスーパーバイザー／相談／指導が受けられるシステム
「医療通訳者の地位向上、身分保障」
・ 経済支援、専門職として仕事ができる仕組み (報酬、派遣・雇用、保険)
・ 医療機関／医療従事者／一般社会への認知・正しい理解
「認証、制度、仕組み」
・ 公的認証制度
・ 認証とは別の自治体をまきこむ制度作り、行政の巻き込み (予算確保)
・ 医療従事者の教育の中に組み込むこと
・ コーディネーターなどバックアップスタッフの存在と仲間、スーパーバイザーの養成
5. あなたは医療通訳者に対して教育や指導に関わっている立場ですか (未回答有)
 いいえ 25 (69.4%) はい 11 (30.6%)
6. 全体の感想をお願いします。
・ 医療通訳者の教育、認定が制度化されていない中、とても良い話をおききました。
言語が違ってても応用できる部分が多いと思います。医療通訳に関わる1人として勉強し続けることが大事と思いました。
・ お金の問題はいつも提起されますが現実的には医療通訳がないと回っていかないという現実がまずやってくる
ことではないかと思う。その為にも通訳が各々専門家として自分を磨くことが大切ではないかと思われた。
・ 手話言語による支援・通訳をしています。音声言語の通訳と課題と共通するところが多いと感じました。
今後も一緒に研修できたらと思いました。
・ 医療通訳者の自己研修とスキルアップ、日本における医療通訳者の認識・地位向上、医療通訳者を守る制度・システム・
個人的な責めを負わないようにするのも大切。このようなシンポジウムをまた開催されればいいなと思いました。
・ 私は医療従事者 (看護師) を育てる立場にありますが、残念なことに医療過誤の多くは互いのコミュニケーション上の
問題に起因します (看護師が医師の指示を誤解するなど)。医療通訳の議論をきっかけに、医療現場でのコミュニケーション
全体を見直す機運が高まることを望んでいます。私もできることをしていきます。